２０２４年(令和６年)　３月１９日　NO.１３　　発行：三豊市立財田小学校　三豊市財田町財田中 5325 番地１　　文責：齋藤徳三

コスモス

☆校　訓：「支え合い　学び合い　たくましく」
☆学校教育目標：
「健やかな心身をもち　自ら学び
たくましく生きる子どもの育成」
☆児童会合言葉：「心を一つに　楽しく挑戦」

最高の卒業式

３月１５日（金）、令和５年度 三豊市立財田小学校 卒業証書授与式を挙行しました。

開始前、会場は、１～５年の在校生、保護者の皆様、ご来賓の皆様、教職員が入り、コロナ禍前のような状態で、卒業生を迎える準備が整いました。最高の天気にも恵まれました。
「卒業生入場」。９時。卒業生が入場してきました。背筋がしっかりと伸び、目線は国旗を見つめ、どの子も堂々とした態度でした。
「国歌斉唱」は、式の最初の歌です。会場が一つになって歌いました。
「卒業証書並びに記念品授与」。卒業証書は校長の私が、記念品は市教育委員会の方が授与します。ステージに上がると、担任が、出席番号１番の児童の名前を呼びました。「はい。」というすばらしい返事が響き、児童が壇上に上がってきました。目と目を合わせてお互いに礼をします。「卒業証書。〇〇〇〇。右の者は小学校の課程を修め その業を終えたことを証する。」と読み上げ、卒業証書を差し出すと、児童が作法通りしっかりと受け取り、斜め後ろに下がりました。私の正面には２番の児童が上がってきました。どの子も、小学校生活最後の「はい。」の返事をがんばっていました。

卒業証書並びに記念品授与

「校長式辞」では、私の思いを卒業生に伝えました。
「教育委員会挨拶と来賓祝辞」では、皆様方から温かいメッセージをいただきました。ありがとうございました。

在校生お祝いの言葉

「お祝いメッセージ披露」では、三豊市長様や昨年度転出された先生方、これまでかかわってこられた先生方からのメッセージやお名前を紹介しました。
「在校生お祝いの言葉」です。在校生全員でお祝いの気持ちを伝えました。出だしは在校生のリーダーである５年生の台詞でしたが、大変すばらしかったです。続いて１年生の代表児童が、１年前の入学の時の思い出を述べ、１年生全員の「大好きです。」で締めくくりました。その後、２、３、４、５年生と続きました。それぞれの学年の締めの言葉は、２年「かっこよかったです。」、３年「うれしかったです。」、４年「あこがれでした。」、５年「引き継ぎます。」でした。全てばっちりきまりました。続けて、♪大切なもの♪を在校生全員で歌いました。二部合唱のできばえもすばらしかったです。お祝いの言葉も歌も、これまでで最高でした（百点満点で五百点！のできばえ！！）。

卒業生旅立ちの言葉

そして、「卒業生旅立ちの言葉」。１～５年生の時の思い出を役割分担して語り、６年生の「全進」の学級目標、運動会、修学旅行（北淡震災記念公園・奈良の大仏・金閣・絵付け体験・ＵＳＪ・・・）、学習発表会での英語劇、「さいたプロ

ジェクト（ボランティア・あいさつ・全校遊び）」の取組、日々の授業の思い出 etc.を語ってくれました。そして、地域の皆様や教職員へのお礼。在校生へのメッセージ。家族への感謝の気持ちや思い。心が伝わってきました。そして、最後に、♪正解♪を贈ってくれました。
「卒業記念品目録贈呈」では、代表児童から目録を受け取りました。贈っていただいた運動会等で使うテントは、暑い日差しから、子どもたちを守ってくれることになります。ありがとうございます。
「保護者代表者挨拶」では、過分なお礼のお言葉をいただきました。ありがとうございました。
「校歌斉唱」。卒業生と在校生、そして、教職員という、今年の財田小学校の全員で歌う最後の歌でした。「どんな世界があるのかな・・・・・」で始まる本校の校歌。このすばらしい歌詞を、すばらしいメロディーに乗せて、すばらしい子どもたちとともに歌えることに感謝しながら歌いました。
「卒業生退場」。コロナ禍の時の式よりは長かったのですが、あっという間に、卒業生退場の時が来てしまいました。どの子も、卒業証書と記念品を持ち、会場全体の大きな拍手に送られて、堂々と退場していきました。

卒業生退場

　この後は、６年教室に帰り、保護者の方にも入っていただき、最後の学活（お別れ）を行いました。そして、最後の最後は、校舎から正門までへのお見送りでした。春の温かい日差しと空気の中を、親子いっしょに歩いていただきました。晴れやかな表情の中にも、さみしさや照れくささなど、様々な気持ちが入り交じっていたことと思いますが、素敵な瞬間でした。
　卒業生は、最高の式の主役を立派に務めてくれました。いえ、卒業式の主役だけではありません。この６年間、それぞれの学年の取組や日々の中で、一人一人が主役でした。また、今年１年間は学校全体の主役として、また、下級生をサポートする脇役として、いつもみんなに寄り添ったり、みんなを引っ張ったりしてくれました。ありがとうございました。
　これから始まる新しいステージでは、これまでよりも不安が大きくなることがあるかもしれませんが、みなさんには応援団がついていますから大丈夫です。夢・志をもち、感謝の気持ちで思い切ってチャレンジしてください。